

この時期の発達過程

2歳半ごろになると、急激にまた言葉が増えていきます。2歳代では文の爆発という時期も迎え、二語文も話し出します。中には大人と会話をするくらいレベルの言葉を発するお子さんもいますが、個人差の大きな時期です。大人の言葉を真似するので、いつも一緒にいる大人は、出来るだけ正しい日本語で美しい言葉をたくさん聞かせてあげたいですね。

また、大人の話す言葉かけもよく分かるようになり、「危ないからここには乗らないよ」「食べたら出かけるよ」などの2つの内容で構成された文も理解し、自分で考えて行動することも出来るようになっていきます。

言葉がたくさん増えると人とのコミュニケーションが楽しくなり、周りの大人やお友達に話しかけることも多くなるでしょう。

これまでは家族だけの人間関係で十分だったかもしれませんが、だんだんそれだけでは物足りなくなっていくと思います。色々な世界をお子さんにたくさん見せてあげましょう。初めて見る景色や自然、乗り物、動物など。乳児期のお子さんにとっては特に、実体験以上の学びはありません。

他のお友達と一緒に遊んだり関わる事を求める時期でもありますので、積極的にお友達と遊べる機会を作ってあげると良いでしょう。お友達とおままごとなどの再現遊びなども楽しめるようになってきます。

この時期のお悩み

言葉が増え、自分の意思を言葉で表現出来るようになると、何にでも「いや！」という「イヤイヤ期」が始まり、苦労しているという親御さんもいらっしゃるかもしれません。

イヤイヤ期は自我の芽生えや自立心の表れでもあり、成長していくための通過点。とは言え、実際にイヤイヤ期に直面している大人は本当に大変ですよ。子どものイヤイヤ期とはどう向き合っていけば良いのでしょうか。

この時期のお子さんは出来ることも増え、自分という存在をますます意識するようになるので、もう今までのように大人から指示されたように動くというやり方は受け入れられなくなっています。自分の自我を認めて、何かを決めるときには自分の意思も尊重して欲しいと思っています。

そんな時の大人の心構えとして大切なのはやはり、子どもも大人と同じように一人の人格をもった人格者として尊重するという事。大人には大人の都合や考えがあるように、お子さんにはお子さんの都合や考えがあります。まずはそんな小さな自我を認めてあげましょう。具体的な関わり方としては、例えば何かを決める時に選択肢を与えるという方法があります。

「どっちの靴下を履いていく？」「今日はフリースとジャンパーどっちを着ていきますか？」など。寒いからと言って、勝手に大人が選んだものを着せてしまうよりも、お子さんに自分で選んで決めて貰うほうがよっぽどお出かけ前の支度がスムーズにいく場合が多いものです。

選択肢を与えるのが難しい場合も、大人が勝手にやってしまうのではなく、何でもお子さんに一言許可をとってやらせる、という方法もおすすめです。例えば急いでいるからお子さんが自分で靴を履くのを待たなければならない場合も「急いでいるから今だけママにお手伝いさせてくれる？」など。選択肢を与えたり、許可をとるという方法は、「あなたの事をちゃんと一人の人格者として認めていますよ」というメッセージにもなります。

イヤイヤ期は大人もエネルギーを使われ、本当に大変な時期ですが、この時期を乗り越えると子どもは驚くほどにぐんぐん成長していきます。考えてみればほんの少し前までは無力だった赤ちゃんが、自分で出来る事が増え、自分の意思がはっきり出てくるようになったというのは喜ばしい成長の軌跡ですね。自分でやりたい、決めたいという意欲の芽をつままないように出来るだけ意識して関わっていききたいですね。

井上エリ

子どもの心の根っこを育むcocorone主催。
アドラー心理学とモンテッソーリ教育を活かした子育て講座をオンラインで開催中。
また、自身の保育士経験も活かしながら保育士向けの研修も行っている。
アドラー勇気づけ講師、モンテッソーリ教師、8歳と1歳の女の子と男の子のママ。
インスタグラム、ブログも更新中。



STAGE 13
(2歳4か月
~2歳6か月)



保育園がつくる
子育てサブスクリプション

パッケージ紹介

1

アーチレインボー小 (グリムス社)

虹をモチーフにしたアーチ型の積み木です。重ねて、積み上げて、並べて、丸く囲って、ゆらゆら揺らして・遊びの幅が非常に広く、想像のイメージも広がりがやすいのが人気のポイント。遊んでいるうちに大きさの違いや順番への気づきにも導かれていくでしょう。あっという間にファンタジーの世界に入り込んで遊んでくれるかな？



2

ウォルター WALTER イン&オン (ニック社)

赤系・青系・緑系、3種類の色の系統が4層の入れ子のようにボードの穴に挿し込めるようになっています。スポッとサイズを合わせるたびにどんどん気持ちよさが増していくような、大きさの順番を間違えると「おや？これは違ったみたい」と、やり直したくなるような、誰にどうしろと言われたわけでもないのに、なぜだかどんどん手を動かしたくなるおもちゃです。「赤」は子どもが「自分」を重ねてイメージすることが多い色です。「青」と「緑」は視認するのが難しく、3歳以上の幼児でも青と緑の区別をするのに混乱することがあるものです。イン&オンで遊ぶ中で、自然と「青の仲間はこちらなんだ」等と認識が深まることでしょう。ボードに並べることも囚われずに、タワーのように積み上げてもいいですね。



3

ひも通し動物 (デュシマ社)

17種類のいろいろな動物には、それぞれ2つずつ穴があげられています。しっかりとしたとじ紐を通していくのですが、ビーズに通すのとは異なり「前から挿して裏側から挿し込む」という針の運針のような高度なひも通しの動きが目標です。とはいえ、遊びの好みはその子次第。串刺しの様にどんどん通すことが面白い子もいれば、動物を手で持ってお話しさせることが好きな子もいるでしょう。動物の登場するわらべうたを口ずさみながら、ちょっとしたお仕事の様に大人がやって見せると思わず真似っこしたくなるかもしれませんよ。指先の技巧性を育む遊びです。



4

ロンディ (レナ社)

円盤の切込み同士をかみ合わせて、いろいろな形を作る平面のブロックです。小さな子をつたない力で手首もひねりながらロンディをくっつけるのは大人が思っているより難しいのです。2個くっつけて「何に見える？蝶々かな？」「赤と緑でイチゴみたいね」と、出来たものに後から名前を付けていくのがこの年齢の特徴です。ロンディの穴もひも通しに使えますから、同じパッケージ内の「ひも通し動物」と組み合わせても面白いですね。幼児になるとかなり複雑な造形も出来る優秀なブロックです。



5

マグネット式スタッキングトレイン (プリオ社)

木のブロックでステキな汽車を組み立てましょう！各ブロックには磁石が内蔵されているのでピタッとくっつく感触も楽しめます。同じパッケージ内のアーチレインボー小などと合わせて遊ぶと一気に物語の世界が広がります。ひも通し動物のピースで「動物園」に到着～。次は～「ロンディのお花畑にまいりま～す」。



6

ベリーくんのきのみやさん (エド・インター社)

マグネット式のペンでボード内の木の実（金属入りの玉）を迷路のような道をたどるように動かします。絵本がセットされていて、リスの木の実屋ベリー君が森の動物たちから注文された木の实をお届けする！と、ストーリーを追いながら遊ぶのも楽しいです。色や数への興味を深め、手指の技巧性、思考力、集中力も引き出しやすいおもちゃです。ペンの持ち方の練習にもなります。



絵本

しっぽがびん

最初にきつねがしっぽを「びん」。そのあと「たらし」。そして「びんも たらしも できるよ」「ほら、びん たらし」。愉快なリズムにつられて、ねこもかめも「しっぽがびん」「しっぽがたらし」。最後はみんな一緒に「びん たらし」！



絵本

もりのおふろ

ライオン、ゾウ、ウサギ……たくさんの動物が森のおふろにやってきた。みんなで輪になり背中を流し、おふろにドボン！ ゆっくりお湯につかって、極楽極楽、いい気持ち！種類がちがう動物たちが背中を洗い合う姿に、子どもたちは「楽しそうだなあ、仲良しだなあ！やってみたいなあ！」と思うことでしょう。



うた

わらべうた

YouTube このトイChで紹介しております。QRコードからご確認ください。

